

## 三鷹市まちづくり条例が改正

### 4月1日から開発事業に係る「環境配慮制度」がスタートしました

#### 三鷹市まちづくり条例改正の概要 ～環境配慮制度が導入されました～

市では、平成8年に「三鷹市まちづくり条例」を制定し、「緑と水の公園都市」を目指したまちづくりを進めてきましたが、市民、事業者、三鷹市による協働のまちづくりをより積極的に進めるため、まちづくり条例の改正を行いました。

●都市計画課 内線281・4・2081

#### ■条例改正の経緯

市では、平成12年4月に「三鷹市環境基本条例」を施行し、この中で事業者が自ら環境保全に対する事前調査や対策を行う制度を定められました。また、平成12年6月に施行された「大規模小売店舗立地法」では、大型小売店の出店に際して周囲の環境への調和など、環境に対する配慮が設置者に求められています。

そこで、「緑と水の公園都市」を将来都市像としている市では、まちづくりに大きく関わる開発事業について、周辺環境への調和や自然環境の保全など、環境への配慮を求める制度を導入することとしました。

また、都市計画法の改正により、市民の発意による地区計画などの原案の提出が可能になりましたので、必要な規定が条例に盛り込まれました。

#### ■条例改正の主な内容

- (1)宅地開発、マンションなどの開発事業に対して、「環境

#### 環境配慮制度の概要

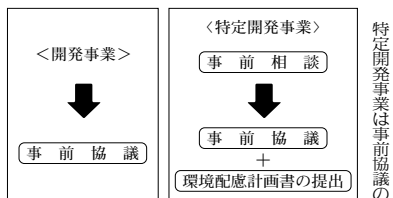
##### ～開発事業は市の環境配慮指針に基づいて計画を～

今回の改正は、開発事業を行う事業者が、環境への配慮を要請する「環境配慮制度」の導入を柱の一つとしています。制度の概要は次のとおりです。

●目的  
開発事業を行う際に、「三鷹市環境配慮指針及び環境配慮基準」(詳細は後記)に基づき、環境との調和、環境への負荷の低減、そのほか必要な措置を自ら積極的に講ずることにより、環境の保全、回復および創出を図ります。

●対象となる事業  
●500平方メートル以上の宅地開発  
●高さ10メートルを超える建物  
●(種別)①一種低層住居専用地域では、3階以上または軒の高さ7メートルを超えるもの  
※ただし、個人住宅は除きます。

●15戸以上の共同住宅・長屋  
●店舗面積が500平方メートル以上の建物



項目	生活環境	文化的環境	自然環境	地球環境	その他
駐輪場	○				
交通	○				
大気汚染	○				
騒音振動	○				
土壌汚染	○				
地盤沈下の防止及び地下水保全	○				
電磁波障害	○				
日照障害及び周辺生活環境	○				
防災・防犯対策	○				
歴史・文化財保護	○				
風景	○				
緑地	○				
自然生態系	○				
エネルギー対策	○				
建設資材の再利用	○				
地域コミュニティへの配慮	○				
その他市長が必要と認めるもの	○				

※工事の際は「工事に係る環境配慮基準」を遵守していただきます。

前に事前相談を行い、環境への配慮を示す「環境配慮計画書」を提出してもらいます。

#### ■環境配慮指針

開発事業が事業を行うにあたり配慮すべき基本的な方針を示したもので、具体的に配慮すべき内容を示した「環境配慮基準」への適合、「土地の適正利用」「環境の保全」「回復及び創出」「地域社会との協調」「販・防犯対策」「福祉のまちづくりの推進」「良好な都市景観の形成」「事業計画に関する情報提供」などを求めています。

#### ■環境配慮基準の構成と項目

環境配慮基準は、全ての開発事業者が満たすべき「最低基準」と開発事業者が目指す「誘導基準」からなっています。

また、基準の項目は大きく分けて「生活環境」「文化的環境」「自然環境」「地球環境」の4つの種類からなり、それぞれの具体的な項目と対象となる事業は左表のとおりです。

※詳しくは、都市計画課(市役所5階) 内線281・4、または三鷹市ホームページでご確認ください。

## 「三鷹市緑化基準」を制定

### 4月1日から敷地の空地部分の20%以上を緑化

#### ■目的

市では、緑豊かで潤いのある緑と水の公園都市の実現を図るため、平成12年に三鷹市緑と水の保全及び創出に関する条例を制定しました。この条例に基づき、今回、公

共施設、民間施設において確保すべき緑の量を「緑化基準」として定め、市民、事業者、市が同じ目標と認識のもとに緑化の推進を図っていくことを目的としています。

●対象となる事業  
●20平方メートル以上の敷地の建築物、駐車場、作業場などの設置や建替え、増設  
●20平方メートル以上の土地での開発行為(2以上の隣接する土地において、土地の造成や建築物の設置などを行う場合も含みます)。

緑化基準は、敷地内に確保する緑の量(敷地内緑化)と道路に接する部分に確保する緑の量(接道部緑化)の基準の大きな2つの柱で構成されています。

◇敷地内緑化  
①敷地内の地上部に確保する緑化の面積

◇接道部緑化  
敷地の道路に接する部分に確保する緑化の延長

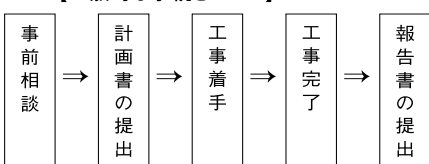
標準的な基準は、敷地の道路に接する部分の20・80%以上を緑化する必要があります。

#### ■手続き

事業着手に先立ち緑化計画書を提出し、緑化工事完了後は緑化完了報告書の提出を行っています。

なお、環境配慮制度の対象となる事業については、環境配慮制度に基づき手続きを行っていた

#### 【一般的な手続きフロー】



## 花と緑であふれるまちづくり 市民緑化団体を募集します

市の道路に接する民有地をお持ちの方で、近隣の方々と一緒に花と緑を育てたいという方、園芸用具・お花などを提供し、受け付けますが、くわい内容はお問い合わせください。応募多数の場合は抽選となります。

◆支援内容 花苗、花種、プラント、じょうろなどの、接道部の緑化活動を行うための用品を3年間支給します。

▼4月8日(月)から、緑と公園課(市役所5階・審判口)で受け付けますが、くわい内容はお問い合わせください。応募多数の場合は抽選となります。

◆緑と公園課 内線281・3・2834

## 総合治水施設 見学会

①河川の地下調節池の取水施設 神田川・環状七号線の下調節池・善福寺川取水施設・杉並区、②下水道の雨水ポンプ施設 両国ポンプ所・墨田区を見学します。対象は小学4年生以上(小学生は保護者同伴)。

▼5月19日(日)午前9時45分、都庁に集合。午後3時ごろ、両国ポンプ所(両国駅付近)で解散予定(昼食は各自持参)。

▼4月24日(水)必着。までに、往復はがきに住所・参加者名・年齢・電話番号を記入し、〒100-8001東京都建設局河川部内部事務局へ申し込む。抽選で100名。

※事務局 内線281・5・5415

## ごみ焼却場(第1処理場)のダイオキシン類調査結果

いずれも基準値以下

排ガス中のダイオキシン類濃度 (ng/m³)

炉	測定日	13年度測定値	12年度測定値(参考)
1号炉	平成13年6月11日	0.63	1.1
2号炉	6月15日	3.9	0.78
3号炉	6月12日	0.093	0.73

※排ガス1m³中の測定値で、1ng(ナノグラム)は10億分の1g。緊急対策が必要とされる判断基準値は、80ng/m³

平成13年度中に実施した市のごみ焼却場(第1処理場)の、法律に基づく定期調査の結果ができました。別表。今回の調査結果においても排ガス中のダイオキシン類濃度は緊急対策が必要とされる判断基準の80ナノグラム1立方メートルを大幅に下回り、本施設のような既設の焼却場に適用される恒久対策基準5ナノグラムを下回った結果となっています。